

半自然草原のお花畑の仕組み

アイデア求む

ポイント OECM
草を刈ると利益になる
仕組みが必要

箱根ビジターセンター(自然公園財団)学芸員 伊豆川哲也 izkw_tetsuya@yahoo.co.jp 2025年10月

植生の遷移(乾性遷移)とは、裸地が草原に、草原が森になってゆく経年的な変化(図の上部)。かつての里山では**屋根材、飼料、肥料**等にするため、毎年、草刈りをした。すると結果的に遷移が止まる。この草刈りを長年続けると**秋の七草や盆花(オミナエシやワレモコウ等)**の**長命な多年草**がススキと**共生**してくる。これが**半自然草原(歴史の古い草原、二次草原)**。

半自然草原は、日本の国土の3~2割もあったが近100年で**99.5%消滅し危機的**。

箱根では、仙石原の箱根湿生花園の南側の湿原や台が岳ススキ草原、仙石原の箱根カントリー倶楽部、稜線登山道脇の幅広に草刈りされた部分、芦ノ湖北側の湖尻園地の広場脇等に小規模ながら維持されている。

植生の遷移



1年目

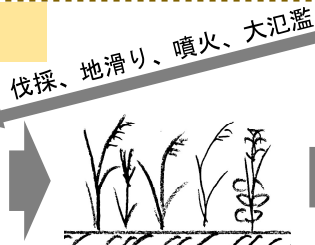
1年草が優占

ノシバ

ヒメジョオン外来種

ベニバナボロギク外来種

多年草は根茎栄養で
春生長が早いため種子
発芽の1年草を被圧



3~5年目

先駆性で

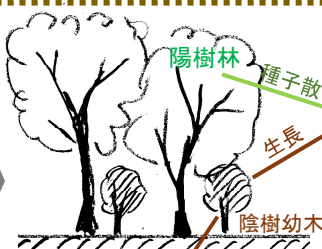
短命な多年草が優占

ススキ、モミジイチゴ

アキノキリンソウ

ハルジオン外来種

セイタカアワダチソウ外来種



陽樹の林床に陰樹の幼木。
陰樹：生長は遅いが林床でも枯
れない種。ブナ、シイ・カシ等

10~50年目

先駆性の樹林

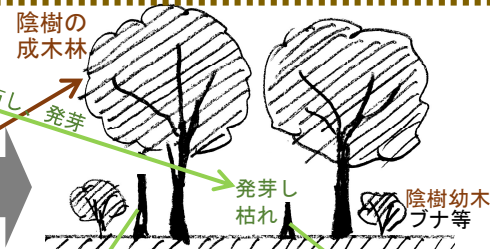
陽樹林

ノイバラ、クサギ

ニシキウツギ

ハンノキ類、イヌシデ

アカマツ



陽樹の成木は
寿命で枯れる

陽樹の幼木は発芽するが林床では暗くて
枯れる。陽樹の下で陽樹は育たない

300~500年目

原生林・極相林

陰樹林

ブナ(関東の山地帯、芦ノ湖~外輪山)

モミ・ツガ(中間標高)

シイ・カシ(関東の低地、箱根湯本)

樹木の種子も飛来
し毎年たくさん発芽。
しかし刈取ること
で樹林化を抑制

多年草は根茎や
ロゼット型で越冬



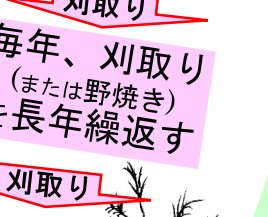
刈取り

翌年



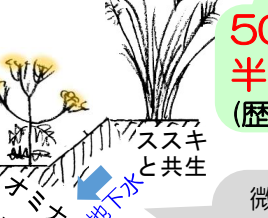
刈取り

翌年



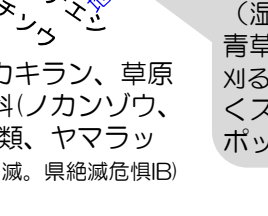
刈取り

毎年、刈取り
(または野焼き)
を長年繰返す



刈取り

秋の七草や盆花
お花畑



刈取り

ススキ
と共生

アザミ

ワレモコウ

オミナエシ

アザミ

先駆性
短命な
多年草

淘汰
される

非
先駆性
で
長
命
な
多
年
草

増加し
ススキ
と共生

50年~数千年

半自然草原

(歴史の古い草原、二次草原)

微地形による小ギャップ
(湿地、凹地、段差等)や、
青草刈り(飼料用に枯れる前に
刈る)で、ススキの勢いが弱
くススキに被圧されないス
ポットにお花畑

太平洋戦争の頃(1945昭和20年終戦)まで、何百~何千年と、
草を刈取り、**資材として持続的に利用**してきた。

なぜ? 答え: ほぼ地産地消だったから。

- ・日本国土の**2~3割**が**草原**だった(現在0.5%以下)
- ・箱根山でも外輪山の尾根まで**緩斜面は草原**だった。

【刈草の利用方法】

- ・茅葺き屋根
- ・田畑の肥料、雑草の発芽抑制(有機農法、敷き藁)
- ・果樹ミカンの肥料(小田原・湯河原・東伊豆町の細野高原)
- ・茶畑の肥料(世界農業遺産「茶草場」静岡県掛川周辺)
- ・牛馬の放牧・牧草地(仙石原「耕牧舎」明治期、山北町大野山)
- ・山城、関所(敵の発見のため)・溜池の堰堤(漏水防止)

現代 資源としての**利用減少**

近100年で**99.5%消滅**

毎年、急激に減少中
植生で**最大級の危機**

五十嵐,他2025年

(原生林も貴重だが減少は、ほぼ止まった)

利用(刈取り)が保全となる。

草刈りが利益になる仕組みを増やそう!

利用しよう応援しよう

有機農法、ゴルフ場、ドッグラン、飛行場(ラ
ジコンやグライダーも)、牧場、乗馬クラブ、
山菜狩り場、スキー場(積雪地)、草原の花
ハイキング、草刈り体験、野焼き体験、…
2010年COP10愛知目標のOECM。環境省自然共生サイト

